

小学生になっても

急増中!?



水を怖がる

顔つけできない

潜れない

パンデミックが子どもたちに及ぼした身体的・能力的低下に警鐘!!
新型コロナウイルスによる長引く学びの機会喪失「水泳授業中止」の影響が深刻化

子どもたちの「学びの権利」が大きく侵害される

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学校では、児童生徒の健康と安全を第一に考え、実技を伴う教科である「学校体育」は、多くの授業が学習内容や形態、実施場所、時期などの考慮・変更を求められました。

中でも、水泳の授業においては、複数学級による合同授業により、多くの児童が一齐にプールや更衣室を使用するなど、密集・密接の場面が想定されるため、「水泳授業」すなわち“水辺の安全教育”の中止を余儀なくされました。



「水泳の授業」中止の影響

今年は、水泳の授業を3年間中止していた市内の小学校で、4年ぶりに授業が再開されました。小学校入学と同時にコロナ禍となった児童にとっては、小学校4年生になって“初めての水泳授業”となりました。

いざ、授業を行ってみると・・・「水を怖がる」「顔つけできない」「潜れない」そんな子どもが多数いることが判りました。本来小学校1年生で習得すべきことを、その機会を喪失したことで“水に慣れていない子ども”をたくさん生んでしまったのです。

そして、そんな子供たちの保護者から相談を受け、慌てて当クラブの体験教室に参加されるというケースが急増しています。

(当クラブでは、コロナ前と比較して小学生になっても顔つけできない子どもが94名増加)

学校体育における「水泳授業」の重要性

身体能力の向上はもちろんのこと、学校体育での「水泳授業」は、多発した水難事故によりその大切さが重要視され、小中学生の授業に導入されました。海に囲まれた日本にとって、**水泳は自らの命を守るための大事なカリキュラム**です。水泳授業において、水に触れて水への恐怖を払拭すること、水中運動を通じて体力や持久力を養うことは、水の事故を未然に防ぐための理論的な思考を育み、水の危険から身を護ることにつながるのです。

当スイミングクラブでは、
幼児と分けて**小学生専用の体験教室**を設けています。
お子様が水泳授業に無理なく適応できるよう「水慣れ」から練習します。

・・・あなたのお子様は大丈夫ですか？ **早めの開始をオススメします。**

